日本昆虫学会
2017年度評議員会報告

日時　2017年9月1日（金）15:00－16:00

場所　愛媛大学城北キャンパス A会場

出席者「評議員」北海道：吉澤和徳；東北：溝田浩二（代理の方出席）；関東：野村周平（副会長），石川忠，斉藤明子，深津武馬，小島弘明，岩田隆太郎，増子恵一；東海：河野勝行；信越：中村寛志（代理の方出席），藤山静雄；近畿：松本吏樹郎，平井規央（電子化推進委員長）、大島一正，後藤慎介，吉村真由美；中国：三浦一芸，宮永龍一；四国：小西和彦，伊藤文紀；九州：舘卓司，紙谷聡志，荒谷邦雄（自然保護）；「本部（評議員以外）」秋元信一（会長），鈴木誠治（庶務幹事），大原昌宏（会計幹事），神保宇嗣（渉外・本部事務，図書幹事）；「委員長等（評議員以外）」加藤徹（会計監査），戸田正憲（編集委員長），広渡俊哉（日本の昆虫編集委員長），三枝豊平（日本昆虫目録編集委員長）

Ⅰ．報告事項

報告事項１．庶務幹事報告

（会員動向について）

2017年8月1日現在の会員総数は1130名（一般正会員863名，学生正会員191名，海外正会員17名，団体会員38団体，賛助会員3名，名誉会員10名）である（寄贈会員3名を加えて1133名）．退会処理予備群である3年以上の会費滞納者（2015年度から2016年末日を納入期限とした2017年度分会費まで）は，42名である．

また，2016年末時点で2014年度から2016年度分までの3年分の会費を滞納していた会員35名を，日本昆虫学会会則第8条の「一般正会員は会費年額9,000円を，学生正会員は会費年額3,000円を，若手正会員は会費年額6,000円を，海外正会員は会費年額5,000円を前納しなければならない.」および第11条2.の「3年以上にわたって会費を滞納した場合には，退会とみなされる.」により退会とした．

（事務関係）

1. 2017年１月２８日，正木進三名誉会員がご逝去された．学会長名で弔電，弔辞を送り，献花を行った．弔辞は竹田会員によって代読された．
2. 農研機構　日本典秀氏より，10月開催の「The 5th International Entomophagous Insects Conference（第5回国際食虫性昆虫学会議）」への後援の依頼があった．執行部で検討し，2017年4月10日に承諾の旨返答した．
3. 東大総合研究博物館　矢後勝也氏より，6月から開催の「スクール・モバイルミュージアム「東大昆虫館」」への後援の依頼があった．執行部で検討し，2017年5月15日に承諾の旨返答した．
4. 2017年度若手奨励賞に4件の選考対象となる応募があった．2017年5月16日締め切りの候補者決定投票の結果，高須賀圭三会員（研究タイトル：行動から見るクモの寄生バチの適応進化）が候補者となった．5月24日締め切りの候補者の受賞の賛否についての投票の結果，同会員の受賞が決定した．
5. 2017年度論文賞の候補論文5編は，編集委員会において委員による投票により選定され，日本昆虫学会論文賞選考細則第３条に則って 2017 年 5 月 30 日締め切りの評議員による5編の候補論文に対する投票を行った結果，以下の２論文の受賞が決定した．

   Kosei Hashimoto, Koh Suzuki and Fumio Hayashi: Unique set of copulatory organs in mantises: Concealed female genital opening and extremely asymmetric male genitalia. ENS 19(4), 383-390.

   Sinzo Masaki, Masayuki Soma, Hidenori Ubukata, Haruo Katakura, Rie Ichihashi, Zhuqing He, Nobuaki Ichijo, Norio Kobayashi and Makio Takeda: Ground crickets singing in volcanic warm “islets” in snowy winter: Their seasonal life cycles, photoperiodic responses and origin. ENS 19(4), 416-431.
6. 2017年度あきつ賞の公募を行ったが，応募は無かった．
7. 支部会を引き継ぐ各地区の研究会・学会の名称について以下の通り連絡があった．

   北海道：北海道応用動物・昆虫研究会
   東北　：東北昆虫学会
   関東　：関東昆虫学研究会
   信越：信越昆虫研究会
   東海：東海昆虫研究会
   近畿：関西昆虫学研究会
   中国：中国地方昆虫学会
   四国：四国昆虫研究会
   九州：九州・沖縄昆虫研究会
8. 九州支部より要請のあった「九州大学の昆虫関連資料にかかわる要望書」の提出に関し，通信評議員会を開催し，2017年 1月30日了承された．

9. 電子化推進委員会規程第 2 条に基づき，同委員会委員の承認に関する通信評議会を開催し，2017 年 1 月 27 日以下の方々が承認された．
平井規央（委員長），上田昇平，鈴木誠治（ワーキング：庶務幹事），桝永一宏（ワーキング）吉富博之（ワーキング）
10. 日本の昆虫編集委員会規程第 3 条に基づき，同委員会委員の承認に関する通信評議会を開催し，2017 年 2 月 3 日以下の方々が承認された．
広渡俊哉（委員長），紙谷聡志，坂巻祥孝，中村剛之，丸山宗利，三田敏治，山田量崇，山根正気
11. 一般社団法人日本昆虫学会（案）の定款案の承認に関する通信評議会を開催し，2017 年 5 月 8 日原案通り承認された．
12. 秋元信一，大原昌宏，吉澤和徳，鈴木誠治を設立時社員とする一般社団法人日本昆虫学会が 2017 年 8 月 15 日付で設立された．
13. 一般社団法人日本昆虫学会設立時暫定規程（案）の承認に関する通信評議会開催し，2017 年 8 月 30 日原案通り承認された．

（庶務幹事　吉澤和徳・鈴木誠治）

報告事項２．会計幹事報告

2017 年度会計中間報告は別紙 1 の通りである．

（会計幹事　大原昌宏）

報告事項３．渉外・本部事務幹事報告

なし

（渉外・本部事務幹事　神保宇嗣）

報告事項４．図書幹事報告

1. 2017 年 3 月末をもって国立情報学研究所の電子図書館事業（NII-ELS）が終了した．これに伴い，NII-ELS で電子化され，国立情報学研究所の CiNii を通じて公開されていた本会学会誌（昆蟲，昆蟲ニューシリーズ，Entomological Science 1-5 巻）の閲覧・論文ダウンロードが 4 月からできなくなったが，4 月 10 日に論文ダウンロード機能が再開された．一方，記事一覧ページについてはその後再び閲覧できなくなっている．これらの状況について，ウェブサイト，お知らせメールを通じて会員に周知を行った．
2. 昆蟲ニューシリーズの電子公開については，科学技術振興機構（JST）が運営する J-STAGE への移行手続きを進めている．現在 NII-ELS で電子化されたバックナンバーの移行，および最近の巻号の登録等を進めている．今年中の公開を目指している．
3. 本会学会誌に掲載された記事の機関リポジトリへの収録条件について，庶務幹事・編集幹事とともに取りまとめをおこなっている．今後，ウェブサイトへの機関リポジトリへの収録条件の掲載，学協会著作権ポリシーデータベースの登録内容修正を行う予定である．

（図書幹事　神保宇嗣）

報告事項５．編集委員会報告

1）英文誌Entomological Science編集報告

1．編集状況

・2015年受領論文（確定）

国・地域	受領	採択	却下	採択率(%)
日本	57	35	22	61.4%
その他アジア	99	9	90	9.1%
ヨーロッパ	25	4	21	16.0%
北米	7	1	6	14.3%
中南米	32	5	27	15.6%
アフリカ	10	0	10	0.0%
オセアニア	1	0	1	0.0%
合計	231	54	177	23.4%

＊再投稿可で却下された論文：34

・2016年受領論文（月別投稿数は1月より順に22, 28, 1 24, 15, 19, 14, 13, 12, 19, 17, 18, 16）

国・地域	受領	採択	却下	採択率
日本	40	19	21	47.5%
その他アジア	76	8	68	10.5%
ヨーロッパ	38	10	28	26.3%
北米	3	1	2	33.3%
中南米	49	8	41	16.3%
アフリカ	10	0	10	0.0%
オセアニア	1	0	1	0.0%
合計	217	46	171	21.2%

＊ 再投稿可で却下された論文：28

・2017年受領論文（2017年7月17日現在，月別投稿数は1月より順に21，23，19，17，17，29，14）

国・地域	受領	採択	却下	未決
日本	38	5	21	12
その他アジア	50	2	45	3
ヨーロッパ	24	1	16	7
北米	3	1	2	0
中南米	20	1	15	4
アフリカ	5	0	3	2
オセアニア	0	0	0	0
合計	140	10	102	28

投稿論文数はこのところ漸減傾向にあるが，2016年は，ヨーロッパからの投稿数，採択率が回復，中南米（特に，ブラジル）からの投稿数，受理論文数が増加した．採択率は21.2%で，2015年よりも下がり，依然としてきびしい．2017年の投稿数は，現段階で微増傾向にある．

・Volume 20（2017年）の編集状況

本年（1月）から逐次電子出版に変更し，出版可能となった論文から逐次Volume 20の通しページ番号をつけて電子出版されている．7月31日現在，46編（436ページ）が出版され，2編がEarly View（EV）出版，2編がEV待ち，6編が出版社（Wiley）に出稿済みの状況にある．Volume 20の総ページ数は471ページ（契約ページ448＋Wiley提供ページ8＋オープンアクセス論文ページ15）になる予定で，残り35ページは8月中には消化される見通しである．

その後の論文はEV出版に留め置かれ，来年1月になったらVolume 21の論文として出版される．EV出版は学術的には正式出版で，著者，読者にとって実質的な不利益は生じないと考えられる．このEV出版に留め置かれる期間は，昨年に比べて若干短くなる見通し（Volume 20の最初の論文は，昨年7月にEV出版されている）．

冊子体購入者等に配布するために，1巻を4分冊（号ではない）に分けて冊子体を作成することにした．第1分冊（ページ1－126，15論文）を3月下旬に，第2分冊（ページ127－224，14論文）を6月下旬に作成，第3，第4分冊をそれぞれ9月，12月下旬に作成する予定．

冊子体が会員に配布されなくなったことに伴い，新規出版論文の情報（Wiley Online Libraryから送られてくるContent Alertメールの情報）を，「日本昆虫学会お知らせメール」で会員に知らせることにした．今年は，Libraryのシステムの問題で，Content Alertメールが届いたり届かなかったりしたが，今後は安定的に届く予定．

2）和文誌「昆蟲（ニューシリーズ）」編集報告

1．編集状況

・2016年受領論文総数は14編（内，新記録ノート2編；2015年は総11編）．内，受理9編，却下・取り下げ5編（受理率 64.3%／2015年は72.7%）．月別投稿数は1月より順に，3，0，0，1，1，1，1，0，2，1，1，2．

・2017年受領論文数は8月1日現在9編（内，新記録ノート1編）．内，受理7編，却下・取り下げ1編，査読中1編．月別投稿数は1月より順に，3，3，3，0，0，0，0．

・19巻2号よりグラビアの掲載を開始した．さらに，連載「フィールドでの昆虫研究」に加え，「昆虫学概論・各目解説」「昆虫標本作製法・撮影法・活用法」「昆虫研究者のための博物館資料論・資料保存論」を開始した．

・19巻掲載論文

1号：新記録ノート1，連載：フィールドでの昆虫研究1，フォーラム2．

2号：グラビア1，原著論文2，新記録ノート1，連載：あきつ賞1．

3号：グラビア1，原著論文2，短報1，連載：フィールドでの昆虫研究 1，連載：昆虫学概論・各目解説1，連載：昆虫標本作製法・撮影法・活用法1．

4号：グラビア1，原著論文1，連載：フィールドでの昆虫研究 1，連載：昆虫研究者のための博物館資料論・資料保存論1，フォーラム1．

・20巻掲載論文

1号：グラビア1，総説1，原著論文1．

2号：グラビア1，原著論文1，短報1，新記録ノート1，連載：フィールドでの昆虫研究1，連載：昆虫研究者のための博物館資料論・資料保存論1．

3号：グラビア1，原著論文2，短報2，新記録ノート 1，連載：昆虫標本作製法・撮影法・活用法1．

4号（予定）：グラビア1，原著論文2，短報1，連載：フィールドでの昆虫研究1．

・21巻（予定）

1号：「日本昆虫学会100 周年特集号」（阿部芳久会員編集担当）となるため，通常に加え約70ページの増頁を予定している．

（委員長　戸田正憲）

報告事項６．自然保護委員会報告

1．2017年度上半期活動報告

１）４月18～20日　「熊本県のゴイシツバメシジミ保全に関わる要望書（2015年2月10日提出）」関連の現地調査の実施

２）２）５月31～６月２日「与那国島への自衛隊配備計画に関わる要望書（2011年12月23日提出）」関連の現地視察の実施（最終回）

２．書面会議報告（2017年７月開催）

議題　　自然保護委員会独立会計分の本部会計への一体化について

学会の法人化に際し，自然保護委員会が管理している独立会計分を本部会計へ一体化する案を承認した（ただし愛媛大会の自然保護委員会主催のシンポジウム関連の必要経費を除く）．2017年７月31日時点で自然保護委員会が管理している独立会計分は以下の通り．

「昆虫類の多様性保護のための重要地域」残金　393,552円

「自然保護委員会活動費」繰越分：　44,180円

「自然保護委員会活動費」今年度分：　25,000円

合計　462,732　円

３．愛媛大会期間中の自然保護委員会の議事次第

報告事項

1) 今年度上半期活動報告　（内大臣と与那国島での調査，視察の実施）

2) 書面会議報告（自然保護委員会独立会計分の本部会計への一体化についての承認）

議題

1）愛媛大会での自然保護委員会主催シンポジウムについて

開催日時・場所：９月３日14:00～16:00　総合研究棟1　4階大講義室

プログラム

地元昆虫同好会「愛蝶会」との共催で，里山の希少種保全に関する以下の４題の講演を実施予定．

・「里山」像をいま一度見直す　永幡嘉之（自然写真家）

・岩手県におけるチャマダラセセリ保全の試み　新井隆介（日本チョウ類保全協会）

・里山における水生昆虫の現状と保全　北野　忠（東海大学教養学部）

・里山の昆虫類の保全にむけて　中村康弘（日本チョウ類保全協会）

2) 次回大会の自然保護委員会主催シンポジウムについて

東海支部（愛知大会？）　山岸委員（東海支部）の提案テーマ：「外来種」

3) 自然保護関連の社会情勢について（情報交換等）

（委員長　荒谷邦雄）

報告事項７．日本の昆虫編集委員会報告

1)「The Insects of Japan 日本の昆虫」の編集状況

Vol. 6. Kazumi Yoshihara: Curculionidae: Baridinae (Coleoptera).

吉原　一美　ゾウムシ科ヒメゾウムシ亜科（甲虫目）171 pp. + 356 figs.（2016年3月25日発行）

Vol. 7. Takeshi Terada: Stathmopodidae (Lepidoptera).

寺田　剛　ニセマイコガ科（鱗翅目）221 pp. + 19 pls. + 233 figs.（2016年3月25日発行）

Vol. 8. Kyohei Watanabe: Ichneumonidae, Banchinae, Glyptini (Hymenoptera).

渡辺恭平　ヒメバチ科ウスマルヒメバチ亜科ハマキヒメバチ族（膜翅目）402 pp. + 1107 figs.（2017年3月25日発行）

Vol. 9. Mitsuhiro Iwasa: Sepsidae (Diptera).

岩佐光啓 ツヤホソバエ科（双翅目）101 pp. + 267 figs.（印刷中）

2）原稿募集について

執筆要領と編集員会規定は学会ホームページを参照してください。

（委員長　広渡俊哉）

報告事項８．電子化推進委員会報告

1）ウェブサイトのデザイン等

一部のリンク切れの解消と、複雑になったファイルやリンクの整理のために、全般を通した大幅修正を業者に依頼した。2017年8月2日より、リニューアルしたサイトに切り替えた。

一般社団法人への移行に向けて、書き換えの必要な箇所の確認が今後の検討課題である。

2）あきつ賞

今年度は応募が無かった。

（委員長　平井規央）

報告事項９．日本昆虫目録編集委員会報告

1. 2016 年に第４巻準新翅類（咀顎目，総翅目，半翅目）4,540 種，第５巻脈翅目群，長翅目，隠翅目，毛翅目，撚翅目 700 種の二つの巻についてそれぞれの担当編集委員のご尽力によって刊行した．

2. 本年は第２巻旧翅類，蜻蛉目，蜉蝣目の出版を今回の大会開催時までに刊行する予定で担当になった中村剛之委員が尽力している．

3. 第１巻無翅昆虫類，第３巻直翅系昆虫類，第７巻鱗

翅目蛾類，第 9 巻膜翅目の各巻についても，それぞれの担当編集委員及び著者のご尽力で編集が順調に進行していて，来年度の刊行を目途にしている．

４．最後の刊行になる第 6 巻鞘翅目については，編集の著しい遅れがあり，委員長として担当編集委員に編集を早急に進行させるように要望している．

（委員長　三枝豊平）

報告事項１０．将来問題検討委員会報告

会長から，将来問題についての検討をまったく要請されておらず，一般社団法人への移行に関連する検討課題への取組を優先しておりましたので，委員会としての活動はほぼ全くおこなっておらず，報告すべき事項はありません．

（委員長　市岡孝朗）

報告事項１１．100 周年記念事業委員会報告

１．　日本昆虫学会 100 周年記念公開シンポジウム「次の 100 年への挑戦」を開催する．
［2017 年９月２日(土),松山市立子規記念博物館］

２．　和文誌の 21 巻（2018 年）の１号または２号を 100 周年記念特集号とし，シンポジウムの講演者による原稿７編を掲載する．これらの原稿は刷り上りが約 70 ページとなる予定なので，超過する印刷費と送料の計 70 万円の支出を本学会の次年度予算からお願いしたい．

（委員長　阿部芳久）

報告事項１２．日本 ICIPE 協会に関する報告

（１）2016 年 3 月に，日本 ICIPE 協会の総会および研究報告会を応動昆・ 昆虫学 会合同大会（大阪府立大）にあわせて開催した．

（２）12 月，ケニアの国際昆虫生理生態学センター（ICIPE）より，奥田隆 氏（農業研究機構）に対して理事への就任要請があり，受託した（任期 3 年で 2 期ま で）．

（３）12 月，ICIPE の Segenet Kelemu 所長訪日に際し，日本とアフリカの昆虫学 コミュニティーにおける国際学術交流について意見交換をおこなった．

（日本 ICIPE 協会委員　佐藤宏明）

報告事項１３．自然史学会連合に関する報告

1．2017年度自然史学会連合主催の講演会

① 大阪市立自然史博物館本館講堂 2017年8月19日
「瀬戸内海の自然史」（内容：瀬戸内海をフィールドとする第一線の研究者が，魚や海藻，生物多様性について最新の研究成果をわかりやすく解説する．）

② アクアマリンふくしま　2017年11月25日（詳細については総会でお知らせする．）

2．九州大学総合研究博物館への要望書（8月末頃に提出）

九州大学の伊都キャンパスへの移転に際して，現博物館に収蔵されている標本資料の保管場所の充分な確保を大学総長に要望する．

（自然史学会連合　昆虫学会代表　清水　晃）

報告事項１４．日本分類学会連合に関する報告

１．第１6回総会は２０１7年１月７日（土）国立科学博物館本館講堂（上野）で開催され，江口克之委員と秋元が参加した．決算・予算案ならびに本年度事業計画の審議がおこなわれ，また同日午後には同会場で「若手分類学者の底力を見よ！～社会の眼も意識しつつ～」（国立科学博物館共催）というテーマで公開シンポジウムが開催され，多数の参加者があった．

２．国立沖縄自然史博物館設立（案）について村上哲明委員から説明があり，各学会からの協力をお願いしたいとの依頼があった．

３．ABS(Access and Benefit-Sharing)の現状について村上哲明委員より，詳しい説明があった．

4．日本分類学会連合ニュースレター２7号，28号を刊行した．昆虫学会ホームページにもリンクされている連合のホームページ（http://www.bunrui.info/）から最新号までのニュースレターをダウンロードできる．

５．運用開始１4年目のメーリングリストTAXAは，昨年12月10日現在，登録者数1062名．2015年末から17名増加した．

６．第１7回総会・シンポジウムは2018年１月６日（土）に開催される予定である．シンポジウムのテーマは未定．今後，シンポジウムを国立科学博物館で開催する場合には，国立科学博物館の共催であっても，会場料が発生する可能性があるとの報告が行われた．

（日本分類学会連合昆虫学会代表 秋元信一）

報告事項１５．国際昆虫学会議に関する報告

第 25 回国際昆虫学会議はアメリカ合衆国オーランドにて 2016 年 9 月 25 日から 30 日まで開催され，102 カ国から 6683 名が参加する盛大なものでした．昆虫学会員をはじめとする日本からの出席者のみなさんに感謝いたします．

会期中に開催された評議員会で，評議員に深津武馬会員が選出されました．また，第 26 回国際昆虫学会議は 2020 年 7 月 26 日から 31 日までフィンランドのヘルシンキで開催されます．

わたしの８年間の任期が満了いたしました．この間のご協力をどうもありがとうございました．今後とも国際昆虫学会議をどうぞよろしくお願いいたします．

（国際昆虫学会議　前評議員　沼田英治）

沼田先生の後の新評議員に選任されました深津です．皆さんのお力添えをいただきつつ，微力ながら日本の昆虫学の国際的なプレゼンスの向上に資するようつとめたいと思います．

改選後の評議員会は 18 カ国を代表する 21 名から構成され，議長（Chair）には米国昆虫学会（ESA）前会長の May Berembaum 博士（イリノイ大学）が就任いたしました．

http://ice2016orlando.org/about/ice-council/

第 26 回国際昆虫学会議実行委員会は Heikki Hokkanen 博士（ヘルシンキ大学）を委員長として発足し，すでに会場や内容の具体的な検討に着手し，評議員会とも情報交換しながら準備を進めているところです．

第 26 回国際昆虫学会議の公式ウェブサイトは現在準備中です．関連情報について，現状では以下で見ることができます．

https://www.facebook.com/ICE2020Helsinki/

今後とも，新しい情報や展開があった場合には，日本の昆虫学関係の皆様に適宜お伝えし，情報共有をはかっていく所存ですので，どうぞよろしくお願いいたします．

（国際昆虫学会議　評議員　深津武馬）

報告事項１６．日本昆虫科学連合に関する報告

１．2017 年度の総会と公開シンポジウム「昆虫の恵みーその多面性－」を開催した．[2017 年 7 月 22 日(土)，東京大学]

２．本連合編集の「招かれない虫たちの話：虫がもたらす健康被害と害虫管理」が 2017 年３月に東海大学出版部から出版された．

（日本昆虫科学連合　日本昆虫学会代表　沼田英治・阿部芳久）

報告事項１７．法人化検討委員会報告

2017 年 3 月 20 日に定款最終案を執行部に提出した．これを踏まえ，3 月 28 日（応動昆大会時）に執行部と法人化検討委員長らが定款最終案について確認した。

（委員長　佐藤宏明）

報告事項１８．男女共同参画推進委員会報告

情報収集が中心で特に報告する事項はありません．

（委員長　田中一裕）

報告事項１９．国際昆虫学会議招致委員会報告

沼田英治先生を委員長として，3 月 28 日(火）に東京農工大学において，「第 1 回 ICE2024 招致委員会」が開催された．出席者は，伊藤，小野，沢辺，志賀，嶋田，徳田，日本，沼田，松浦，吉村，オブザーバーとして，石川，岩淵，前藤，深津，日本政府観光局(JNTO)安藤，高橋（以上，あいうえお順，敬称略）．

その時にまとめられたことの概略は，以下の通り．

１．開催候補地として，複数の候補地から，会場規模，周囲のホテル部屋数，観光，経費，気候などを鑑みて，京都か神戸が適当ではないかとした．両候補地の詳細については，さらにリサーチをして情報を集めていく．

２．開催時期については，2024 年 8 月下旬から 9 月上旬とした．

３．京都と神戸については，委員の中で担当者を決めて情報を集め，比較検討をする．予算計画全体についても担当委員が行う．必要に応じて，JNTO の協力を得る．

４．３．の結果に基づき，次の第 2 回招致委員会で 1 都市に絞る．

沼田英治委員長のもと 8 月 27 日（日）に京都大学において，「第 2 回 ICE2024 招致委員会」が開催された．出席者は，伊藤，小野，沢辺，志賀，嶋田，徳田，日本，沼田，松浦，吉村，オブザーバーとして，石川，

岩淵，深津（以上，あいうえお順，敬称略）.

決議された内容の概略は，以下の通り.

１．開催候補地として残っていた神戸と京都について、さまざまな観点から議論を行い、最終的に開催都市を「京都」に決定した。

２．開催時期を「2024 年 8 月 25 日（日）～30 日（金）」に決定した

３．大会役員を以下のように決定した。

委員長(Chair)　　小野　正人（玉川大学）
副委員長(Vice-Chair)　　志賀　向子（大阪大学）
事務局長(Secretary-General)松浦　健二（京都大学）
会計責任者(Treasurer)　　日本　典秀（農研機構）
日本学術会議担当(Person in Charge of Science Council of Japan)　　嶋田　透　（東京大学）
（国際昆虫学会議招致委員会　昆虫学会代表
小野正人，吉村真由美，徳田誠）

報告事項２０．その他

Ⅱ．協議事項

協議事項１．2016年度決算，会計監査

2016 年度決算、会計監査報告：別紙 2,3 の通り承認された

協議事項２．一般社団法人日本昆虫学会への会員・資産・事業の移行決議

任意団体である日本昆虫学会は2017年9月2日をもって会員を、2017年12月31日までに資産、事業を一般社団法人日本昆虫学会に移行することが決議された。なお、現学会の2017-2018年度の評議員は、2017年9月1日から一般社団法人日本昆虫学会の代議員に就任することになる。

協議事項３．2017年1月から12月までの会計収支報告および会計監査について

2017年1月から12月までの現学会の会計については、学会関係の決算が全て終了した後に、大原昌宏会員が会計収支報告書等を作成することが承認された。同会計の会計監査につきましては､佐山勝彦会員ならびに加藤徹会員が行う。これらの会計収支報告書及び監査結果は､来年度の大会時に開催される代議員総会及び会員総会で報告する。

協議事項４．清算人の承認

任意団体である日本昆虫学会の清算人に，佐山勝彦会員ならびに大原昌宏会員が承認された.

別紙 1

2017 年度会計中間報告(2017 年 7 月 31 日現在)

一般会計　　単位(円)

		実績	予算
収入		12,611,158	
	会費収入	3,309,000	
	その他収入	1,671,941	
	(小計)	4,980,941	10,154,300
	前年度繰越残高(会費以外)	7,630,217	
支出		5,417,229	10,154,300
差引残高		7,193,929	

特別会計　　単位(円)

収入		基金元金	基金利子	積立金	合計
	前年度繰越金	19,241,777	520,592	0	19,762,369
	寄付金			0	
	積立金			0	
	利息			0	
	合計	19,241,777	520,592	0	19,762,369
支出		0	0	0	0
差引残高		19,241,777	520,592	0	19,762,369

別紙２

日本昆虫学会2016年度一般会計収支決算書

（2016年1月1日～12月31日）

科　　目	予　算　額	決　算　額	差　　異
収入の部			
会費	8,610,000	8,344,000	266,000
出版物売上金	100,000	310,992	△ 210,992
英文誌売り上げマージン	400,000	490,322	△ 90,322
広告料	280,000	280,000	0
Wileyより編集費補助	300,000	300,000	0
雑収入	128,000	371,041	△ 243,041
利息	400	347	53
小　　計	9,818,400	10,096,702	△ 278,302
前年度繰越金	0	2,589,047	△ 2,589,047
合　　計	9,818,400	12,685,749	△ 2,867,349
支出の部			
会誌費	6,664,000	7,341,317	△ 677,317
英文誌出版委託費	2,800,000	2,849,000	△ 49,000
英文誌編集費	1,200,000	1,086,800	113,200
英文誌印刷費	464,000	464,000	0
和文誌印刷・編集費	1,600,000	2,278,281	△ 678,281
送料	600,000	663,236	
大会援助金	300,000	300,000	0
会議費	0	0	0
旅費	100,000	99,480	520
渉外・図書費	0	0	0
自然保護委員会	25,000	25,000	0
将来問題検討委員会	0	0	0
電子化推進委員会	57,000	67,867	△ 10,867
学会賞賞金	150,000	90,000	60,000
事務費	50,000	98,328	△ 48,328
業務委託費	1,650,000	1,553,456	96,544
選挙費	300,000	288,926	11,074
各種団体協力金	50,000	50,000	0
財務検査費	400,000	129,600	270,400
予備費（法人化経費）	72,400	257,800	△ 185,400
小　　計	9,818,400	10,301,774	△ 483,374
次年度繰越金	0	2,383,975	△ 2,383,975
合　　計	9,818,400	12,685,749	△ 2,867,349

貸借対照表（2016年12月31日現在）

貸　　方		借　　方	
科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
流動負債		流動資産	
前受会費	4,509,000	郵便振替口座	6,371,703
		三菱東京UFJ銀行福岡支店	678,870
前年度繰越金	2,589,047	三菱東京UFJ銀行江戸川支店	579,644
当期収支差額	△ 1,851,805	現金管理分	0
次年度繰越金	2,383,975		
	7,630,217		7,630,217

財産目録（2016年12月31日現在）

＜資産の部＞

科　　目	摘　　要	金　　額
郵便振替口座	国際文献社管理口座	6,371,703
三菱東京UFJ普通	三菱東京UFJ銀行福岡支店　会計幹事管理口座	678,870
三菱東京UFJ普通	三菱東京UFJ銀行江戸川支店　国際文献社管理口座	579,644
現金管理分	現金管理分	0
合　　計		7,630,217

＜負債の部＞

科　　目	摘　　要	金額
前受会費	2017年度分(2018年度4,000円を含む)	4,509,000
合　　計		4,509,000

収入－支出　　2,383,975 円　　2017年度へ繰越

上記のとおり、収入支出金額について関係書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます

2017年 1月17日

監査 佐藤宏明 ㊞

監査 松浦健二 ㊞

別紙３

日本昆虫学会２０１６年度特別会計収支決算書

（２０１６年１月１日～１２月３１日）

＜基金元金＞

科目		予算額	決算額	差異
収入の部				
	寄付金	0	0	0
	前年度繰越金	19,025,077	19,241,777	△ 216,700
	合計	19,025,077	19,241,777	△ 216,700
支出の部				
	ESA学生相互会員	0	0	0
	次年度繰越金	19,025,077	19,241,777	△ 216,700
	合計	19,025,077	19,241,777	△ 216,700

＜基金利子＞

科目		予算額	決算額	差異
収入の部				
	利息	0	0	0
	前年度繰越金	574,868	620,592	△ 45,724
	合計	574,868	620,592	△ 45,724
支出の部				
	ESA学生相互会員	0	0	0
	国際会議渡航旅費補助金	300,000	100,000	200,000
	次年度繰越金	274,868	520,592	△ 245,724
	合計	574,868	620,592	△ 45,724

貸借対照表（2016年12月31日現在）

貸方		借方	
科目	金額	科目	金額
流動負債		流動資産	
基金元金	19,241,777	普通貯金	19,762,369
基金利子	520,592		
	19,762,369		19,762,369

財産目録（2016年12月31日現在）

＜資産の部＞

科目	摘要	金額
普通貯金	三菱東京UFJ銀行福岡支店（決済専用）	19,762,369
合計		19,762,369

＜負債の部＞

科目	摘要	金額
基金	元金	19,241,777
合計		19,241,777

基金元金と基金利子の次年度繰越金合計　19,762,369 円

上記のとおり、収入支出金額について関係書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2017年 1月17日

監査　佐藤 宏明　㊞

監査　松浦 健二　㊞